

1人1台端末の導入状況

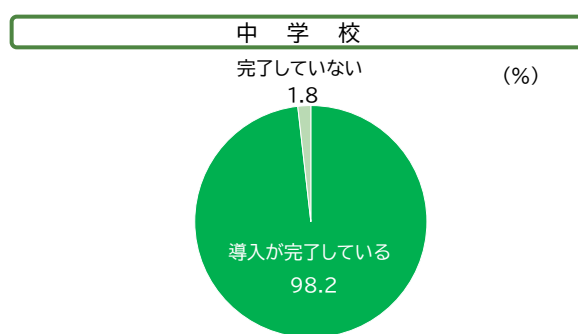
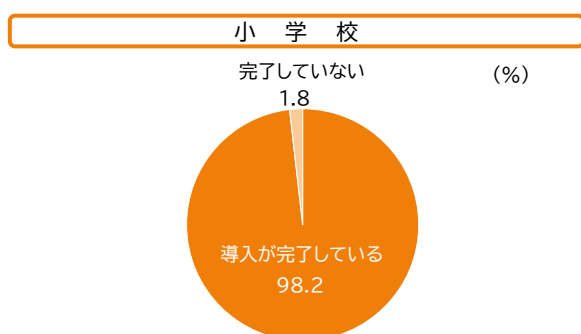
小・中学校はほぼ100%、高校は6割強

1人1台端末の導入は、小・中学校ではほぼ100%となった。一方で、高校は、2021年の3割台から大幅に導入が進んだものの6割台にとどまり（「生徒1人に1台の可動式の専用端末がある」）、残りの3割強の高校は、生徒数人に1台の可動式端末の共用（16.3%）や専用教室での共用（15.7%）などの形式をとっている。高校の属性別にみると、公立より国・私立、進路多様校・中堅校より進学校が先行し、学年別では1年生が先行している。小・中学校に続き、高校でも、ICT環境のさらなる拡充が望まれる。

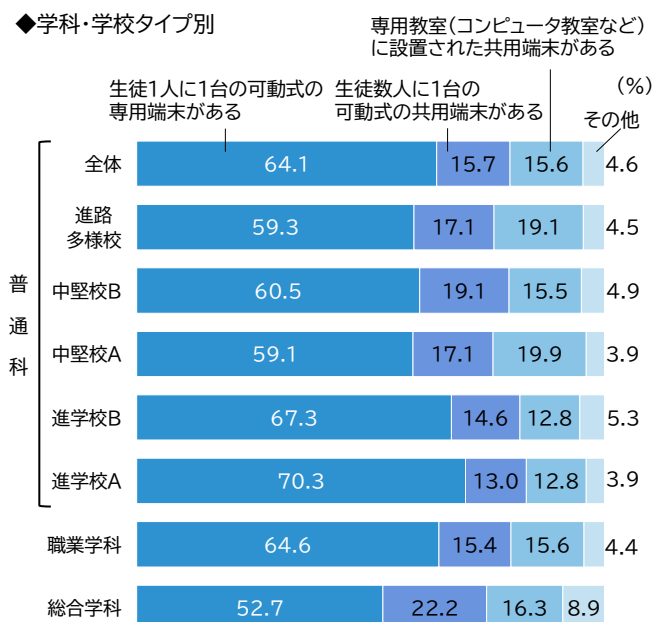
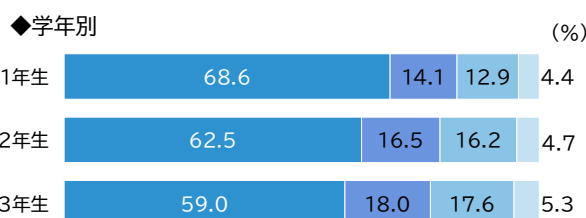
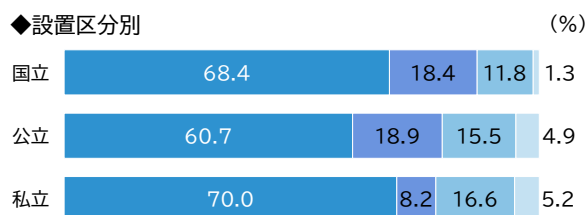
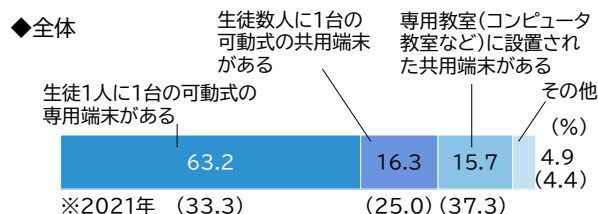
Q 貴校について、次のようなことはあてはまりますか。
 ——「1人1台端末(パソコンやタブレットなど)の導入が完了している」(小・中学校)

Q 生徒のICT機器(端末)の利用環境について、もっとも近いものを1つ選んでください。(高校)

図1-1 1人1台端末の導入状況(2022年)



高校



※「導入が完了している」は、質問に「あてはまる」と回答した教員、「完了していない」は「あてはまらない」と回答した教員（小・中学校）。
 ※「全体」の帯グラフの下に、2021年の「全体」の数値を（ ）で示している（高校）。
 ※設置区分、学科・学校タイプはp.4参照、学年はp.5参照。「その他の専門学科」は回答者数が少ないため示していない（高校、以下同様）。

デジタル教科書の導入状況

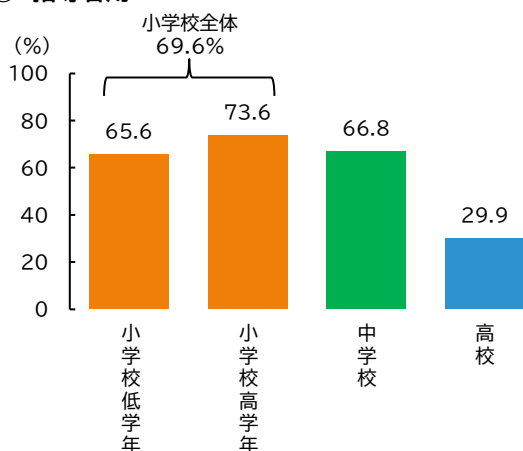
指導者用・学習者用とも、小学校高学年・中学校で導入が進む

デジタル教科書は、指導者用・学習者用とも、小学校高学年と中学校を中心に導入が進んでいる。また、小・中・高校いずれも、指導者用の方が、学習者用よりも導入率が高い（小69.6%、中66.8%、高29.9%）。中・高校では教科による差がみられ、特に外国語で導入が進んでいる。2024年度には小・中学校の外国語で学習者用デジタル教科書の本格導入が他教科に先んじて検討されており、今後のさらなる活用が見込まれる。

- Q 貴校について、次のようなことはあてはまりますか。
- 「あなたが主に担当する学年の教科で、指導者用デジタル教科書が導入されている」
 - 「あなたが主に担当する学年の教科で、学習者用デジタル教科書が導入されている」

図1-2 デジタル教科書の導入状況(2022年)

① 指導者用



② 学習者用

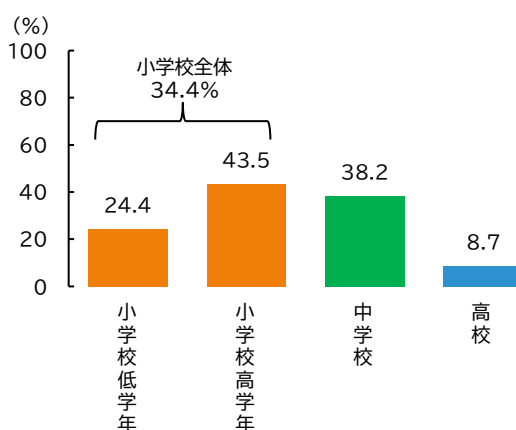
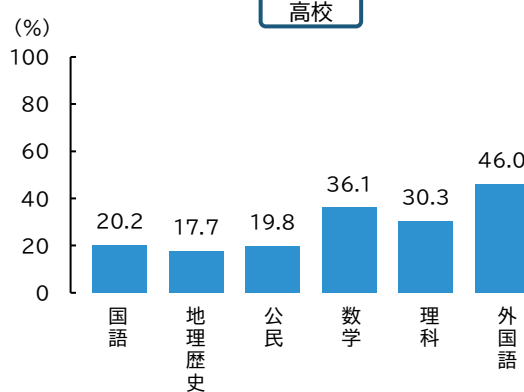
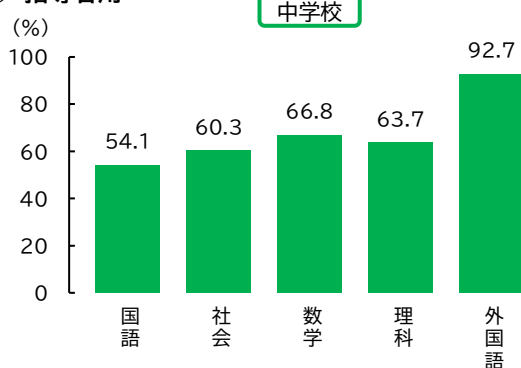
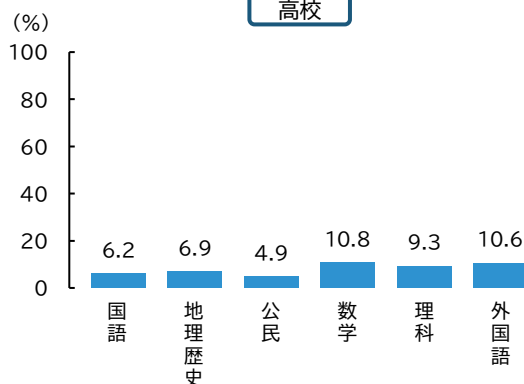
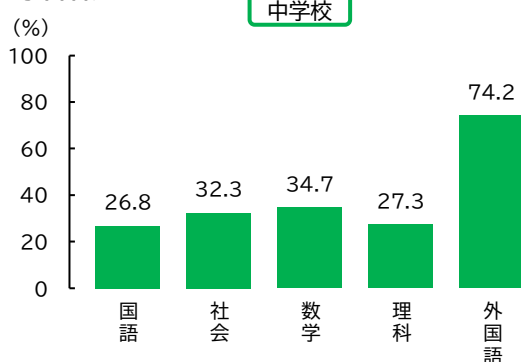


図1-3 デジタル教科書の導入状況(2022年、教科別)

① 指導者用



② 学習者用



※「あてはまる」の% (図1-2~3)。

※小学校教員は担当する学年について、中・高校教員は担当する学年の教科について回答している (図1-2~3)。

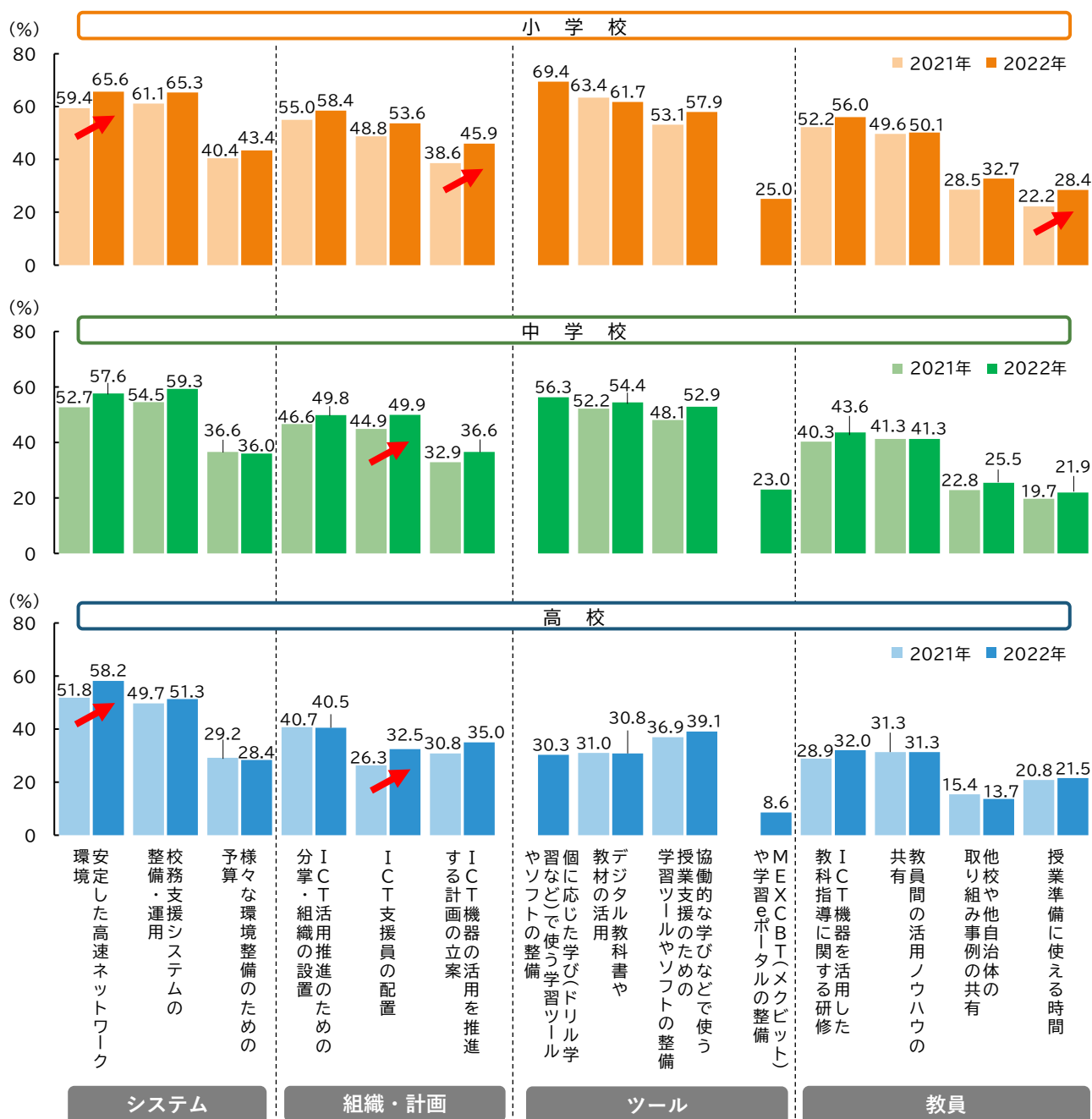
1人1台端末の利用環境の充実度

小・中・高校とも利用環境の充実度は微増

1人1台端末の利用環境は、2021年からの1年間で、小・中・高校とも少しずつ充実した。小学校は、中・高校に比べると充実度が高い項目が多く、学習のツールや、「研修」「ICT支援員の配置」などで差が大きい（小学校は5～6割台、高校は3割台）。一方、小・中・高校とも充実度が低めなのは、「授業準備に使える時間」「環境整備のための予算」「活用を推進する計画の立案」などである（2～4割台）。端末の活用効果を高めるうえで、今後、これらのさらなる充実が期待される。

Q 1人1台端末を活用した教育を推進していくうえで、次のこと(下記の14項目)はどれくらい充実していますか。

図1-4 1人1台端末の利用環境の充実度(経年比較)



※高校は「ICT機器を活用した教育」について尋ねている。
 ※2021年は「個人に応じた学びで使う学習ツールやソフトの整備」「MEXCBTや学習eポータルサイトの整備」の2項目を尋ねていない。
 ※「協働的な学びなどで使う授業支援のための学習ツールやソフトの整備」の2021年の数値は、「学習ツールやソフトの整備」と尋ねたもの。
 ※「とても充実している」+「まあ充実している」の%。